



総会会場全景

毎年秋に開催される総会が台風のため延期され、平成26年2月11日の祝日、前週末の雪があちこちに残る中、230余名が集まりアルカディア市ヶ谷で第41回首都圏段戸会総会・懇親会が盛大に開催されました。

野村親信会長のご挨拶に続いて、古澤武雄同窓会会長、岩間博校長から、科学

第41回総会・懇親会報告

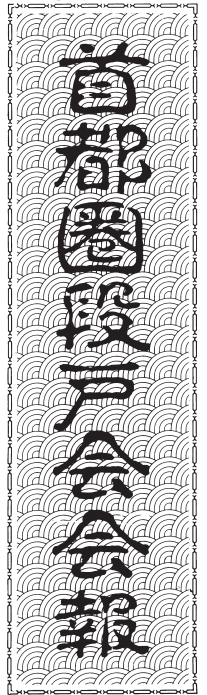
高31回 高原正之



水谷鏡子前副会長（高14回）

の甲子園での活躍、活発な国際交流など最近の岡崎高校の活動についてご紹介がありました。また、役員改選で新副会長に上田洋子さん（高22回）、新副事務局長に井上由美子さん（高34回）の選出が承認され、前副会長の水谷鏡子さんは女性の活躍が社会的な流れなので首都圏段戸会の活動へも積極的な参加をお願いしますと話されました。

今年は、招聘恩師として、成田重忠先生（英語、昭和49年度から昭和53年度）、丸山富久治先生（英語、昭和59年度から平成12年度）、岡本建国先生（社会、昭和62年度から平成13年度）にお越し頂き



平成26年5月
第33号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
野村親信
編集発行人
広報担当
村木央明



講師 杉山孝博さん（高18回）

続いて行われた懇親会では、今年から模様替えした会場のあちこちで年1回の先輩後輩の垣根を越えた交流の輪が広がり、また恩師の先生方を囲んで懐かしい話に花が咲きました。岡高グッズを手に歓談も盛り上がる中、最後は段戸音楽会

孝博先生（高18回）にご講演を頂きました。深刻なテーマなのに何度も笑いを誘う楽しい語り口で、認知症の方の言動を症状として理解することの大切さについてお話を頂き、介護をより身近な問題として感じるとともに、あらためて岡崎高校出身の方々が幅広い分野で活躍されていることを知る機会となりました。



岡本建国先生

恒例の講演会では、認知症の人と家族の会副代表理事、川崎幸クリニック院長の杉山



成田重忠先生



丸山富久治先生

ました。



段戸音楽会の皆さん



岡高グッズ販売コーナー前で高54回生

総会の写真が見られます！

- (1) 首都圏段戸会ホームページの左側にある「写真集」のボタンを押す。
- (2) 最上段の「2014年 第41回首都圏段戸会総会（HP管理人版）」を押す。
- (3) 「第41回首都圏段戸会総会・懇親会」の文章の一番下に青字で総会・講演会 懇親会 山内さん撮影の写真と書いてあるところを押すと写真見られます。また、「写真集」では過去の総会の写真も見られます。

による生演奏をバックに高らかに校歌を斉唱し、台風や雪で心配された今回の総会も無事、終了しました。

次回は平成26年10月25日（土）開催予定です。ご参加をお待ちしています。

古稀年次代表の一言

高14回 中島 綾子

私たち高14回生が心待ちにしていた首都圏段戸会総会が、雨にも風にもそして雪にもめげずに、2月11日に開催され、私たちは古稀を迎えた年次ということで招待を受けました。役員そして会員の皆様からお礼申し上げます。私たちは毎年高出席率を誇っていますが、今回も、15名が元氣な顔を揃えることが出来ました。

私たちは、年に一度の段戸会総会に加えて、同期の集まりもとても盛んです。「いこまい会」と名付けて、ハイキング、名所めぐり、川遊びや相撲、歌舞伎見物など、さまざまな楽しみを長く続けています。また、N響の名演奏を毎月、NHKホール自由席で気楽に楽しむ「楽響（らっきょう）クラブ」は、今年でちょうど十年になりました。演奏会のあとは、余韻にひたりながら杯を傾け、食事を楽しむのが恒例になっています。



筆者（前列中央）と高14回生

さて、今回の総会では、高18回生 杉山孝博先生の「認知症の理解と援助」のお話があり、最近と

みに物忘れや、あれこれそれでの会話が多発する私たちにとって、たいへん身につまされるお話でしたが、懇親会での趣味の会（段戸サークル）の仲間や、年次を越えた老若男女の方々と和気藹々として活気に溢れる交流は、認知症予防に大いに貢献しているのではないのでしょうか。同窓の皆様とのご縁が、卒業して半世紀経っても、しっかりと繋がっていて感謝しています。大きく温かい家族のような大切な絆です。

七十の太台に乗った私たち14回生ですが、これからも、段戸会総会や「いこまい会」に参加して、仲良く元気に過ごしたいと思っています。することがある、行くところがある、友達がいる、を言葉に。

総会出席者の一言

高28回 酒井 邦彦

岡崎高校首都圏段戸会には、かれこれ30年以上も前から参加させていただいております。当時は、「東京農林年金会館」が会場であったかと記憶しております。その後港区芝にあるメルパルク郵便貯金会館を経て、最近ではアルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催されるようになりました。自分は、大先輩の皆様方よりもうんと若い（笑）のですが、首都圏に在住するようになってからは、本段戸会の「古参兵」になってしまいました（笑）。自分が初参加した当時は、（現在もですが……）各界（経済界・政界・法曹界・官界・医療関係・教育界……）のOBの方々もしくは、現役で活躍中の名だたる名士や高名な方々ばかりで、「うあっ！自分には場違い（？）の総会に

来てしまったなあ……」とも、当時は思ったものです。しかし、通い始めて何年もたないうちに「酒井君！宴会の締めで岡高校歌とエールやつてよ」と偉大な先輩方にせがまれて（苦笑）当時の参加者最年少・若輩者である自分が、宴会の「締め」で「岡崎高等学校お（校歌あ）とエール」※昭和50年バージョンで今日まで演武（？）させてもらっております（汗）。最近では、「世話人会」さまのお骨折りのおかげで、我等が「高校28回生」も、（最大時）7人～8人と出席者も増え、ありがたく思います。いささか自慢話めいて参りましたが、自分分は、毎年地元・岡崎市で開催される「岡高同窓会／総会」には、まだ一度も出席したことがございません。現役（小学校教育論）を引退した暁には、一度岡崎の「総会」に顔を出して、愛知県在住の同級生や先輩方との再会を心待ちにしております。～おかに集えば我がゆくて～希望（のぞみ）輝きわたるかな～押忍。フレ～フレ～おかこう～岡高～押忍。



同級生や先輩方との再会を心待ちにしております。～おかに集えば我がゆくて～希望（のぞみ）輝きわたるかな～押忍。フレ～フレ～おかこう～岡高～押忍。

高35回 渡辺 淳

卒業以来、同期生の集まりには参加していませんでしたが、昨年の岡崎高校同窓会総会・懇親会に参加したのを切っ掛けに、今回、首都圏段戸会総会・懇親会に初めて参加させて頂きました。同窓会というと、参加者は高齢層が中

心という印象を持っており、まず会場に入った第一印象として、高齢層からまだ現役の大学生であろう若年層まで、非常に幅広い年齢層の卒業生が万遍なく参加していることに驚きました。このため懇親会では同期生だけでなく、様々な年代層の方々と交流できる場となっており、普段接点の持てないような異業種の方々のお話を聞くことができ、大変新鮮で刺激的でした。



筆者（左から2人目）と高35回生

また総会では、杉山孝博先生の講演「認知症の理解と支援」を拝聴し、認知症の親を持つ身として、認知症の症状の理解と今後の対応を考えるうえで、大変参考になりました。さらに後半の応援・校歌斉唱では、岡高在学時のことを思い出しながら、久々に校歌を歌い、懐かしい気持ちに浸ることができました。

総会後も場所を変えて、後輩諸子と交えた同期会を催し、さらに親交を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回の参加を機に、次回の総会・懇親会もぜひ参加させて頂きたいと思えます。

高42回 山本 浩美

私は、岡高を卒業とともに地元を離れ、関東に来て20年以上になりました。昨年ふと首都圏段戸会のことを思い出し、早

高校三年生のときの記憶というのは、誰にとっても色あせない、ほろ苦くて甘酸っぱい思い出になっているのではない

高50回 中越 淳助

なる世代の方であっても、岡高生という向上心にあふれる3年間を過ごしたという共通項がやはり何か安心感を生むのでしょうか。皆さんユーモアたっぷり、和やかな方ばかりで、初参加でも大変楽しい時間を過ごすことができました。

また、「認知症の理解と援助」の講演会も大変勉強になりました。私自身、介護の経験はまだありませんが、祖父が亡くなる前に見聞きしたこと（娘の事がわからない、同じ昔話を繰り返す等）、そのひとつひとつに「なるほど。そう理解したら、お互い楽なのか」とお話を聞きながら、うなずき通しました。本当に貴重な機会を得たことに感謝しています。

こうして初参加の総会・懇親会は、私にとって高校時代を懐かしむ場というより新鮮な刺激を得る場となりました。また今後もぜひ出席したいと考えていますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。



西浦瑞恵さん（高45回）と筆者（右）

速入会、そして今回初めて総会・懇親会に出席させて頂きました。残念ながら今回、同級生に会うことはできなかったのですが、異



筆者（左）と岡本建国先生

このように、卒業から十数年たった今また恩師の愛を再認識し、身の引き締まる思いを新たにする日となりました。

でしようか。私にとっても例外ではなく、三年時担任であった岡本建国先生（日本史）の下で過ごしたクラスメイトとの日々が今でも鮮明に思い出されます。

今回の首都圏段戸会総会・懇親会にはお世話になった建国先生が初めて招聘恩師としてお見えになるということで迷わず返信はがきに参加表明をいたしました。建国先生は、岡高の名だたる先生方の中におかれては極めて異端児であり（笑）、また、極めてシャイでもあります（笑）ので、壇上スピーチでどんなお話を伺えるかとても楽しみにしておりましたところ、高校時代とまったく変わらぬ建国節で会場を笑いの渦に巻き込んでくださいました。

懇親会の中では、個別に話をする機会を得ました。驚いたことに私が高校在学中に先生に相談したことも含め私のことをよく覚えてくださっていて、卒業後も就職先が新聞を販売したときや、リーマンショック後の金融危機のときなど折に触れて心配をしてくださったことを聞き、笑いながら打って変わってそんな気にかけてくださっていたのかという驚きの連続でした（あの建国先生が！）。

総会議事報告

副会長、副事務局長の選出

第30回総会（平成14年11月開催）で、女性で初めての副会長として選出され、以来12年の長きに亘って重責を担って下さった水谷鏡子さん（高14回）が退任され、新たに上田洋子さん（高22回）が副会長に、井上由美子さん（高34回）が副事務局長に夫々選出されました。

会計報告・監査報告

平成24年度（1～12月）及び平成25年度（1～12月）の会計報告・監査報告が行われ、承認されました。

なお、平成25年度については、10月26日に予定されていた第41回総会が台風で延期されたため、収支計算書にありまうように、年度では大幅な赤字決算となっていました。

つきましては、事情ご賢察の上、会員の皆様には運営協力金への一段のご協力を、深くお願い申し上げます。

首都圏段戸会会計報告（平成25年度）

貸借対照表

平成25年12月31日現在 (単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
現 金	0
通 常 貯 金	1,067,590
郵 便 振 替 資 産 合 計	153,640
	1,221,230
II 負債の部	
未 払 金 負 債 合 計	0
III 正味財産の部	
正 味 財 産	1,221,230
負債及び正味財産合計	1,221,230

収支計算書

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで (単位：円)

科 目	金 額
I 収入の部	
総会懇親会費収入	0
運 営 協 力 金	1,006,600
寄 付 金	0
受 取 利 息	275
そ の 他 収 入	0
当 期 収 入 合 計	1,006,875
II 支出の部	
総会懇親会費用	332,128
会 報 費	762,466
世 話 人 会 費	116,200
雑 費	57,555
当 期 支 出 合 計	1,268,349
当 期 収 支 差 額	-261,474
前期繰越収支差額	1,482,704
次期繰越収支差額	1,221,230

監査報告書

首都圏段戸会の平成25年度（自平成25年1月1日 至平成25年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成26年1月28日

会計監査 辻村 貴典

会計監査 戸田 謙三

〔注〕平成24年度報告については、会報32号（平成25年9月発行）に掲載されています。

新企画 浦島リポート

40年ぶりに帰郷した故郷
岡崎への想い

高14回 水谷 鏡子

人生とは、摩訶不思議なものです。

私の人生設計の中には、帰郷というプログラムは全く組まれていませんでした。このたびの帰郷は、仕事の基盤を40年以上も東京で確立してきた私には、まさに「予期せぬ出来事」でした。この選択は、夫の健康状態を考慮したとき、空気もよく、兄妹のいる故郷岡崎で過ごすことが、彼にとって最良であると考えた末のものでした。



りぶら Libra (岡崎市図書館交流プラザ)

この町には、高層マンションが立ち並び、車道が整然と整備された車社会へと変貌を遂げていたからです。若き日の私が愛した風情豊かなあの当時の城下町岡崎

の姿はなく、自らを「浦島太郎」と称すべきかとの心境と共に、岡崎での新生活がスタートしました。

帰郷当時はある種の緊張感と新たな状況に対応していこうとする心の葛藤の連続でした。その私の心境をふと和らげてくれたのが、皆様ご存じの乙川（菅生川）と愛称りぶら（Libra 岡崎市図書館交流プラザ）の存在でした。

私が馴染んだ乙川は、今は澄んだ水を湛え、大きなコイがゆったりと泳ぎ、無条件に私の心を昔と同様優しく包んでくれたのです。

また、私の感動を誘ったのは、図書館が立派になっていったことでした。この「りぶら」は、シンプルでモダン、そして明るいおしゃれな建物で、一日3000人の老若男女が、「まちの縁側空間」として活用し、全国屈指の図書館としてその名を轟かせています。それが新しい文化を生み出す岡崎市民としての誇りを保っています。それが錯綜していた私の気持ちを高揚させてくれ40年のブランクを埋めながら、故郷の大地に深く根を張り、新たな歩みを始めていきたいと心に誓っています。

人生お楽しみ中！

折り紙と私

高14回 中野 元雄

私がリタイア後に行っている時間潰しの一つが「折り紙」である。これを紹介させて頂く。

一般に折り紙で浮かぶイメージは伝承

の「折り鶴」であろう。その工程はせいぜい20工程であるが、私の作っているものは1000工程以上、多いものは3000工程近くある。完成品の形状は非常にリアルであり、1枚の紙でそれも一切鋏を使わずにここまで作ることができるのかと感心する。これは複雑系折り紙（Complex ORIGAMI）と呼ばれている。ちなみにORIGAMIは世界語として通用する。

さて紙の大きさは30cmから50cm、1mmの紙を使うこともある。工程の最初1/4程度は平面にひたすら折り筋を付けるだけの単調な作業であるが、これは後の基準線となるので正確さが要求される。忍耐力を付けるには絶好の作業である。この後は最初に付けた折り筋に従って折り上げていくのだが一筋縄ではいかないことが多い。一旦折り上げたものを部分的に開いて組み直す工程があるが折り図（折り方を示す図面）からでは理解できないことがしばしばある。図形の変化をイメージできる能力も必要になる。

また紙には厚さがあり、何十枚と重なる数mmになり、このズレを上手く逃がす工夫も必要である。使う道具としては金属製スケール、ピンセットはもとより紙の厚くなった部分を折るためのペンチまで用意してある。

こうして何とか折りあげても完成品はパツとしない紙の塊りであることが多い。よりリアルな形状にするためには折り目をずらして色々といじりまわす。更に要所を糊付けして形を整えやと完成である。写真の作品はフェニックスで75cmの紙を使用し、完成品の大きさは翼長23cm

で、制作期間は5日ほどである。

ところで問題となるのが作った作品の保管で放置しておけば家の中に溢れてしまふ。幸い私の場合には家内の店のショーウィンドウの飾り付けに使って定期的に入れ替えている。ここで展示した恐竜シリーズは子供たちに好評で、何時も眺めている男の子に別々に作ってあげたりすると小躍りして喜んでくれる。それを見るとこちらも小躍りしたくなる。

ところで私はこれらの作品を最初から創造しているわけではない。私がしているのは折る手順を示した折り図に基づいて複製しているのに近い。最初の作者は別にいる。複製といっても一応作り手の感性と技術が現れる。これら折り紙の内部構造は複雑でこれを考える作者の頭の中が不思議でしょうがない。一応折り紙構築理論はあるが簡単な指標でしかなく、数限りない試行錯誤による折り図の蓄積が必要なようだ。いずれにしろ私にはそこまでの能力も覚悟もない。複製で十分楽しんでる。



新企画 わたしのいた頃の岡高

フオークダンス事件

高16回 横井 昭親



上京してから
早半世紀、いま
だ現役として
日々過ごしてお
ります。今回同
級生の野村親信

君（現在首都圏段戸会会長）より依頼を受け、昭和38年岡高在学中（当時三年生）におきた「フオークダンス事件」について、記憶をたどりながら経過をおつて記します。

事件は昭和38年4月に着任された岩城校長先生（前任一宮校長よりの転任）が、前年度生徒会執行部が5月11日予定していた新入生歓迎フオークダンスを生徒会顧問を通し、4月9日に生徒会に「禁止令」を申し渡した。

後期生徒会執行部及び新年度前期生徒会執行部は校長室に出向き懇談したが結論は出ず平行線に終わった。尚話し合い最中、校長より「男女が手をつなぐのは淫らだ」と朝礼の席で禁止の理由を述べた。ほかにも「長髪禁止」「革靴禁止」などを口にした。この時、一般学生はこの問題に無関心ではいられなかった。そして、5月7日生徒議会が「新入生歓迎」を予定通り行うことを全会一致で決定した。

その3日後の5月10日に開かれた職員会議で「新入生歓迎」「週1フオークダンス」の実施を全会一致で許可すること

を決定した。翌5月11日生徒会顧問（鈴木先生）が職員会議での決定事項を校長に提出したが校長の了解は得られず、5月11日に予定していた「新入生歓迎」は延期となりました。

5月11日再度生徒会議会はこの決定をいろいろな角度から検討し「新入生歓迎」を5月18日に開催することを決定した。この対立がマスコミで表面し全国に知られることとなった。

5月16日校長が県教育委員会に呼び出され説得を受け禁止事項を撤回し、その結果「職員監督下での実施」を許可した。5月18日午後1時より生徒会主催による歓迎会として「フオークダンス大会」が500人の参加により行われた。軽快な曲に乗り、青空いっぱい校庭で職員も輪の中に参加し一緒に踊っていたと記憶している。

一方、マスコミを通じて全国的に知れ渡った報道のため、当日はNHK、中日新聞社他朝日、毎日新聞記者も取材に來校したと「高校九十年史」には記されている。小生も岡崎に戻り市立図書館に出向き昭和38年5月19日の中部日本新聞の三河版に「歓迎会」の記事が載っていることを確認した。

後日この事件に対する反省から、5月21日PTA総会にて校風刷新委員会が設置された。また8月には不定期の人事異動が発令され8月1日付にて岩城校長は県教育委員会指導へ、戸松教頭は県文化研究所、生徒会顧問鈴木先生は安城高校に転出された。後任校長として刈谷高校から山本校長が來られた。生徒会はこの処分に対し生徒総会を開き、異動は不当との決議文を8月6日に採択しPTA会

長田口氏に渡された。

長々と薄い記憶をたどりながら心配だったので、当時の生徒会長佐宗公雄君と岡崎で一杯やりながら互いにこの事件のことを話した。岡高創立百数年の青春の1ページの思い出です。

卒業生、金融を語る

高46回 朝岡 大輔

平成25年6月28日（金）の夜、京橋駅の真上にグランドオープンしたばかりの東京スクエアガーデンの一角にあるGraham's Cafeに、金融に携わるまたは関心のある卒業生約15名が集まりました。

段戸フオーラムにも登場されたCITICキャピタルパートナーズの日本代表の中野さん（高30回）とお話する中で生まれた企画です。当初3〜4名で集まるといってすねと話していたのが、首都圏段戸会会員担当の菅さん（高35回）から会員にご案内をして頂いたり、参加者が同級生に声を掛けて頂いたりしたこと参加の輪が広がりました。

会場となったGraham's Cafeは、卒業生の松尾さん（高44回、世話人）が共同経営され、4月にオープンしたばかりのお店です。米国西海岸の明るさと日本的なきめ細やかさの最高の組み合わせで、おいしい料理とお酒を囲みながら、金曜日の夜はゆっくりと過ぎて行くのでした。東京駅近辺で集まりやすい卒業生の拠点として、おすすめです。

参加者は、30回から53回まで年代的にも幅広く、また、携わる分野も、銀行、ファンド、コンサルティング、法律事務

所、特許事務所、事業会社、起業家と多岐に亘り、国内系と外資系問わず幅広い構成となりました。ここまでの広がりになるとは思わず、卒業生の各分野における活躍ぶりに驚くのでした。出席は叶わなかったものの、海外在住の卒業生や金融の第一線を退かれ教育の場におられる卒業生の方などからもご連絡を頂き、活躍の場の広がりを感じさせました。また、筆者の勤務先である日本政策投資銀行からも、後輩の卒業生や配偶者が3名参加してくれました。大阪からわざわざこの会のために休暇を取って駆けつけてくれた後輩もいました。

話題も、それぞれが取り組む日々の仕事に始まり、現在の仕事に至るまでの変遷、所属する組織の内部事情、などに興味深く耳を傾けたり、若手のキャリアアチェンジの相談に乗ったりと、金融への興味を一つの共通項としつつも、さながらにぎやかな卒業生の異業種交流会のようでもありました。ちなみに、開催は「半沢直樹」放映開始（7月7日）の前でしたが、この原稿を書いている時、最終回の視聴率42・2%のニュースが届けられました。今開催したら、その話題で持ちきりだったかもしれません。



筆者（左端） 松尾直樹さん 中越淳助さん

またいづれチャンスがあれば開催したいと思っておりますので、もし金融分野や金融に関心のある方がいらっしゃいましたら、首都圏段戸会事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

なぜこの仕事を? — 薬学の巻

高48回 藤井 晋也



私はいま、
東京大学の附
置研究所であ
る分子細胞生
物学研究所で、
主に有機化学

を基盤として医薬品の種を探すような研究をしています。私はもともと化学に興味を持ち、化学の最も高度な成果のひとつである医薬品の創製に関わる仕事をしたいと思っていました。そのきっかけは、高校時代に岡高の図書室で見かけた「脳と薬物」という一冊の本でした。人間の精神的な活動を脳内の神経伝達物質が司っていることに興味を奪われ、薬学を志すきっかけとなりました。薬学部を卒業後、薬剤師という進路もありましたが、やはり薬を使うよりも創る仕事に就きたいと思い、大学院へ進学後、製薬企業に就職しました。そして就職して数年後に大学時代の恩師からアカデミックへの誘いを頂き、大学を渡り歩きながら現在に至っています。

同じ薬を目指してはいても、企業研究と大学の研究では大きく異なります。単純に言えば、商品か論文か、です。企業研究では、どんなに面白いアイデアがあっても商品に結びつかなければ意味がありません。そしてまた薬の開発には多大な時間（10〜20年）や運（確率は数万分の一）も必要で、自分の関わった仕事か世の中に出る可能性は、他業種と比べてかなり低いと言えます。しかし、成功

して薬になれば大きな売り上げとなり、そして何より多くの人に喜ばれます。一方、大学の研究では実際に薬として開発することは稀ですが、優れたアイデアや発見を「論文」という形でリアルタイムに世に送り出すことができます。そしてそこから自分だけでなく別の研究者や企業が研究を進展させていくダイナミズムがあります。どんなに無名でも自分にひらめきやアイデアがあれば、論文や学会を通じて世界と伍していけるのが大学の魅力と言えます。また、学生さんや共同研究者など、たくさんの人と知り合いふれ合えるのも魅力です。

しかし大学の研究も過渡期となり、研究者にもバイタリティーが必要な時代になってきました。多くの大学で教員が任期制となり、コンスタントに業績を出さないと将来の保証がありません。（しかも多くの場合、製薬企業より給料が安い!）また必然的に異動（転職）も多いので、思い切りの良さやフットワークの軽さも重要かもしれません。（私自身は異動が多く、既に5回も辞職願を書いています!）そして国からの予算も削減されていますので、研究資金を自ら獲得する必要も出てきました。そのような困難はあるものの、やはり自分の頭で考えたことを自らの手で実験し証明すること、また商品を出なくとも、指導した学生さんが世に出ていくこと、このやりがい非常に大きいものです。そして扉を開ければすぐに世界に通じている、そんな魅力がある仕事だと思います。そしていつか自分のアイデアが何らかの形で薬になればと思います。

高53回 上野 傑

幼少期の私は、身体が弱かった。週1回は腹痛に悩まれ、深夜トイレで寝た。心の支えは大正製薬の漢方胃腸薬、飲んだ数十分後、天国に召すように身体は楽になる。仕舞には、匂いを嗅ぐだけで腹痛が治った。

この経験から生物のシステム、更には疾病に興味を持ち、阪大理学部生物学科で学士を、東大薬学系大学院で博士号を取得した。院在籍中、テキサス大学MDアンダーソン癌センターに研究留学するが、当時の彼女が現地で大病を煩う。ヒスパニック系医師の診断説明が全く聞き取れず不安が絶頂に達した私達の前に現れたロッシュ社の新薬。暗い病室で身体中の痛みに耐えていた彼女の、健康に戻る様を見て、薬の威力を痛感する。

このような薬を創りたいと第一三共という製薬会社に入社、ADC (Antibody-Drug Conjugate・抗体医薬に薬剤を搭載した高薬効・高安全性の抗癌剤)の基礎研究に従事する。新たな創薬標的・技術を学ぶ為に、国際学会出席を狙いStanford大学医学部教授やSilicon Valleyの創業ベンチャー企業にアポを取り、彼らと創薬ネタに関して口角泡を飛ばした。その様な基礎研究に没頭する最中、社内献血結果から自分にHIV陽性の可能性があることを知る。HIV薬の進歩で死ぬ事は無いが、薬漬けの人生を考えると絶望。三つの病院で精密検査を受け擬陽性と判明、心撫で下ろすも、創薬に対する自分の甘さを痛感した。基礎実験だけでは新薬までは程遠い、10年以上かかる。対して患者さんは不安の中で現行治療に頼り、10年先の新薬に期待する。死ぬ前

に新薬が届くか何の保証も無い、毎日絶望と戦っている。

この経験から上司に頼み込み、基礎研究だけでなく、Phase III（承認前の最終的な大規模臨床試験）の非臨床薬理を担当する。ほぼ薬効が確認された新薬が、どの様な患者さんに拡大適用できるのか仮説を立てデータを取得し、経営陣を説得する。入社3年目30歳の薬理研究者の言葉はまだ影響力乏しく、正確な実験データ、適切な英語、心打つプレゼンで、彼らを動かさなければならぬ。だが、遣り甲斐がある。

人生は短い、本当に短い。高校生の頃は、癖毛が気になり鏡の前で、好きな子に告白する為に校門の前で、多大なる時間を費やした。いま振り返れば、それ等は多大なる時間の浪費だった。新薬を創るためには、人生は短すぎるからだ。

毎週水曜、ある国立病院の小児科病棟で、患者さんの遊び相手になるボランティアをしている。先週サッカーゲームで負けて泣きじゃくった子供が、今週この世界に居ない。

だからこそ、明朝も5時に起き、新薬創りに品川研究所に向かう。



イタリア軍人、スイス人ジャーナリスト、フランス人教授等と英語で議論した社費英国語留学時の写真。筆者は左端

平成25年度 オープンキャンパス開催報告

高60回 杉浦 綾香

今年のオープンキャンパスは、例年開催されている本郷キャンパスを離れ、駒場キャンパスにて行われた。最高学府としての印象は、赤門や安田講堂がある本郷キャンパスのほうが強いだろうが、駒場キャンパスだって負けてはいない。駒場にはキャンパスが2つ有る。学部1年生と2年生が過ごし、スポーツ・勉学・芸術など様々な事柄に打ち込んでいる若者たちの生き生きとした姿を見ることができる駒場第1キャンパスと、企業との共同研究もっており、最先端の技術を担っていると感じさせる駒場第2キャンパスだ。

今年の目玉は駒場第2キャンパスにある実験住宅の見学だ。案内役は、東大にて研究員をされている世話人の菅さん。その家は、大学のキャンパスにひっそりと佇む一軒家だが、一歩中に入れば、多くのセンサーと観測機に囲まれる。いかに省エネで人間にとって快適な住宅を作るかを追求するために建てられた実験住宅であり、実際に住宅メーカーと共同で研究を行っているとのこと。全ての家電が携帯端末で動かせる、まさに未来の住宅だった。有機EL照明に興味をもつ生徒が多かったのが印象深かった。



また、駒場第1キャンパスでは計算折紙展に案内した。折紙は立派な研究対象であり、工学・数学・芸術の研究者が集う計算折紙という研究分野が存在する。折紙を数式で表すにはどうすればいいのか、折紙の技術への応用がいかに行われているか、という最先端の研究が詰まった内容だった。

参加した生徒のなかには、大学で用いられる教科書を買って帰る生徒もいた。こんな学問を知らないかと生徒に尋ねられ、高校卒業後連絡を取っていなかった自分の友人にも連絡を取った。先輩として、彼らの進路選択のために少しでも貢献できたのであれば、それ以上に嬉しい事はない。

平成26年度世話人

(高2回)服部 登
(高3回)丹羽 鼎
(高6回)有馬 弘政
(高7回)是津 定利
(高8回)杉浦 嘉久
田中 厚生 広報担当
(高9回)岡田 敏夫
(高10回)山川 肇爾
(高11回)永田 宏
中根 淳
(高12回)鶴田 文男
成瀬 徹
(高13回)中 浩之
(高14回)磯尾 進
水谷 鏡子
(高15回)神谷 国広
満江 信之
(高16回)鈴木 弘恵
野村 親信 会長
横井 昭親
(高17回)伊与田 正彦

佐伯 寛子
山田 博子
(高18回)伊藤 博邦
音部 昌宏 広報担当
山内 恵 会計
(高19回)都築 正行 情報担当
福山 透 副会長
村木 央明 広報担当
(高20回)天野 隆太郎 副事務局長
辻村 貴典 企画担当
(高21回)小栗 恵子 会計監査
山田 俊文 情報担当
(高22回)中村 賢治 広報担当
上田 洋子 副会長
(高23回)野々山 浩 書記
(高25回)戸田 譲三 会計
樋江 井和徳 会計監査
(高26回)織田 利彦 事務局長
(高27回)長田 光雄 企画担当
(高28回)酒井 邦彦
(高30回)米津 智徳
(高31回)高原 正之
(高33回)阿部 由美子 会員担当

野村 明
(高34回)板谷 敏正 副事務局長
井上 由美子 企画担当
(高35回)岡田 敦嗣 副事務局長
菅 伸介 企画担当
(高38回)内田 力 会員担当
中西 和幸 会計
(高40回)大田 武
(高41回)平山 健二
(高42回)長野 麻子 広報担当
(高43回)八田 益之 情報担当
(高44回)松尾 直樹 企画担当
(高45回)筒井 貴之 情報担当
西浦 瑞恵 情報担当
(高46回)朝岡 大輔
大川 博
小椋 俊博
(高47回)杉本 いづみ
(高48回)藤井 晋也
(高50回)鳥居 福代 情報担当
(高52回)今泉 貴雅 情報担当
清水 雄太
近藤 佳子

(高53回)小野 靖王
石井 貴大
辻内 直子
(高54回)安藤 康伸
岡田 尚博
加藤 直也
丸山 晃正
(高57回)川口 敦子
山岡 玲子
(高58回)石川 航己 企画担当
鈴木 菜穂子
(高59回)竹内 愛実
塚本 有香
(高60回)篠原 国智 書記
杉浦 綾香
吉村 圭吾
(高61回)辻 翔太
新見 由佳
(高62回)大山 なつみ 企画担当
栗津 文香
(高64回)藤岡 進也
細井 美裕
(高65回)村松 旺

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

“段戸囲碁会”

(代表：藤田 訓弘 高13回) kfujita@muc.biglobe.ne.jp

“段戸音楽会”

(代表：山田 博子 高17回) marcialegow2w-hyyamayama@memoad.jp

“段戸句会”

(代表：小森 篠子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp

“段戸山の会”

(代表：板谷 敏正 高34回) itaya@propertydbk.com

“段戸ゴルフ会”

(代表：木村 富司雄 高10回) BYR10566@nifty.ne.jp

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ (H25年に変更しました) <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねて下さい。

第41回(平成26年2月) 首都圏段戸会総会出席者

(同窓会長)	古澤 武雄		糸田 輝義	齊藤 幸夫	(高32回)	中 根 一		
(校 長)	岩 間 博		笹瀬 修	清水 拓夫	(高33回)	青木 良子	阿部由美子	
(恩 師)	岡本 建国	成田 重忠	中野 元雄	長井佐紀子		野村 明	藤野 真司	
	丸山富久治		中島 綾子	水谷 鏡子		松田かおり	山本 守正	
(同窓会事務局)	大島 一嗣		(高15回)	太田 征男	杉崎慎一郎	(高34回)	青戸 康広	板谷 敏正
(中47回)	神谷 和郎	森 秀夫		鶴田 瑞枝	満江 信之		井上由美子	自見 桂子
(高2・中51回)	青山 敦夫	石川 耕春		山田 智男			鈴木 宏一	
	今井 敏夫	服部 登	(高16回)	大山 達雄	鈴木 弘恵	(高35回)	石井 敦	岡田 敦嗣
(高3・併23回)	伊藤 芳枝	宇津野隼千		野村 親信	横井 昭親		菅 伸介	古澤 昌宏
	小澤 一郎	加藤 正義	(高17回)	伊与田正彦	鈴木 寛		渡辺 淳	
	鎗木 道子	久保 雅之		竹嶋 栄子	徳倉 哲夫	(高38回)	内田 力	中西 和幸
	清水 哲夫	鈴木 亮		中尾 幸男	深谷美智子	(高40回)	大田 武	岡田 邦夫
	高木 次男	高橋 守雄		武藤 隆子	山田 博子	(高41回)	重徳 和彦	
	丹羽 鼎	蜂須賀芳昭	(高18回)	石原 荘介	伊藤 博邦	(高42回)	山本 浩美	
	松井 淳子	柳澤 玖枝		音部 昌宏	清水 久雄	(高44回)	松尾 直樹	松田 晴光
(高6回)	長瀬けい子			杉山 孝博	高橋 成宜	(高45回)	西浦 瑞恵	
(高7回)	青山 明博	市川 毅		山内 恵		(高46回)	朝岡 大輔	大川 博
	加藤 和子	小山 廣治	(高19回)	石樽 直美	木下 武司		高橋 昭紀	
	近藤 衛	斎藤 悦子		香村 幸夫	近藤 陽一	(高47回)	杉本いづみ	又木奈菜子
	杉山 修	是津 定利		高橋 伸芳	都築 正行	(高48回)	井上 健志	荻野友佑子
	高橋里恵子	富田 昌光		福島 安史	福山 透		羽佐田泰弘	藤井 晋也
	永田 綾子	羽谷 允		宮崎 収兄	村木 央明	(高50回)	鳥居 福代	中越 淳助
	三井 豊美		(高20回)	天野隆太郎	伊与田あさ子	(高52回)	今泉 勇	清水 雄太
(高8回)	小野 勝巳	工藤 圭章		神尾 由恵	関戸 博高		三浦 忠司	
	杉浦 嘉久	高橋 道人		辻村 貴典	兵藤 秀和	(高53回)	石井 貴大	辻内 直子
	田中 厚生	外村 仁		細井 土夫	山本 良二		鳥居 敬司	
(高9回)	高木 治子	坂 郁子	(高21回)	足立 純一	阿知波茂樹	(高54回)	加藤 直也	丸山 晃正
(高10回)	鈴木 靖子	山川 肇爾		渥美 忠男	天野 茂	(高55回)	鈴木 優美	増岡 怜治
	山田 敏			大水 博	澤木 啓子	(高57回)	井脇 浩之	大黒 麻木
(高11回)	青木かゑ子	梅村 豊子		徳田 登	内藤 良江		小田亜矢子	川口 敦子
	清水 豊夫	永田 宏		矢田 金市	山田 俊文		川田 有香	重光 章鈞
	中根 淳	服部 豊治	(高22回)	上田 洋子	新庄 弘之	(高58回)	石川 航己	鳥山 順丘
	室 忠夫	山崎 宣典		中村 賢治	程田さとる		鳥山 治子	
(高12回)	稲垣 早苗	神谷 信行	(高23回)	野々山 浩		(高59回)	川野 健太	
	杉浦 宏明	杉浦満智子	(高25回)	岡田 弥生	戸田 譲三	(高60回)	遠藤 寛士	杉浦 綾香
	鈴木 紀夫	鶴田 文男		樋江井和徳			内藤 恵子	
	吹抜 洋司		(高26回)	大山 幸信	織田 利彦	(高61回)	辻 翔太	永田 耕大
(高13回)	小森 葆子	神道 千秋		高橋 芳子		(高62回)	大山 なつみ	
	杉原 洋	中 浩之	(高27回)	大久保玉恵	岸 洋平	(高64回)	岩井 優介	小林 莉紗
	平野 源吾	藤田 訓弘		八田 欣也	山崎 正枝		藤岡 進也	扶瀬 聡史
	本多 正之	森 美鎮子	(高28回)	酒井 邦彦	長坂 光司		松田 浩奈	安田 雛子
(高14回)	天野 彰	磯尾 進		藤嶋 典弘		(高65回)	村松 旺	
	磯村 澄江	太田 眞澄	(高30回)	石川 定雄	米津 智徳			
	大館 眞弓	金澤 忠幸	(高31回)	高原 正之				